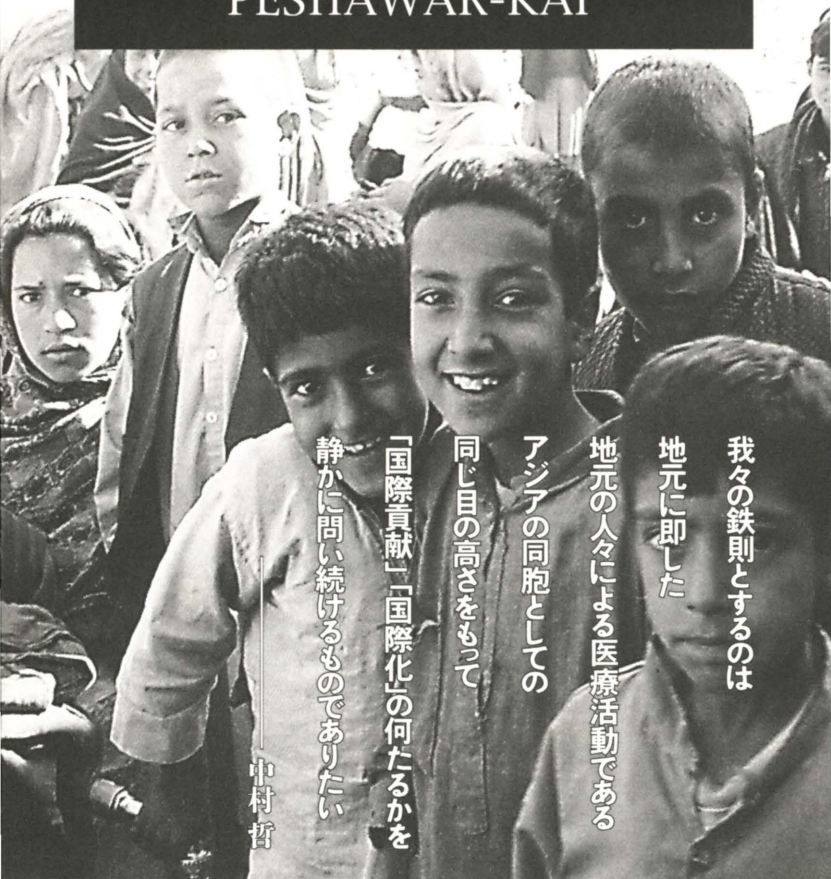


◎海外医療協力団体◎

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI



我々の鉄則とするのは

地元 に即した

地元の人々による医療活動である

アジアの同胞としての

同じ目の高さをもって

「国際貢献」「国際化」の何たるかを

静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局 本部:福岡

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル307号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

分室 石風社内 電話・FAX 092-725-3440

(会長) 高松勇雄 (事務局長) 村上優 (現地代表) 中村哲

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~peshawar/>

eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

ペシャワール会の活動は、1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています

●中村哲 医師の本●

郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座

*送料:1~4冊350円、5~9冊500円、10冊以上1000円です



←『医者 井戸を掘る アフガン旱魃との闘い』

1800円十税 (石風社 2001年刊)

アフガニスタンを襲った最悪の大干ばつに、1000の井戸をもって挑む中村医師とペシャワール会の苦闘と実践の記録



中村哲 ほんとうのアフガニスタン

18年間「開く平和主義」を
つらぬいてきた医師の現場報告

『ほんとうの アフガニスタン』→

1200円十税 (光文社 2002年刊)

講演・対談を中心に収録した最新刊

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されるNGO(非政府組織)です。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などいかなるものにも関係なく入会できます。
*会員の方には、現地の活動をお知らせする会報を年4回お送りしています。



会費 (年会費)

学生会員	1000円 (以上)
会員	3000円 (以上)
維持会員	10000円 (以上)
団体会員	30000円 (以上)

(会計年度は4月1日~翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております
*中村医師の著作も扱っています

会費・寄付などの納入方法

郵便口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出し下さい。

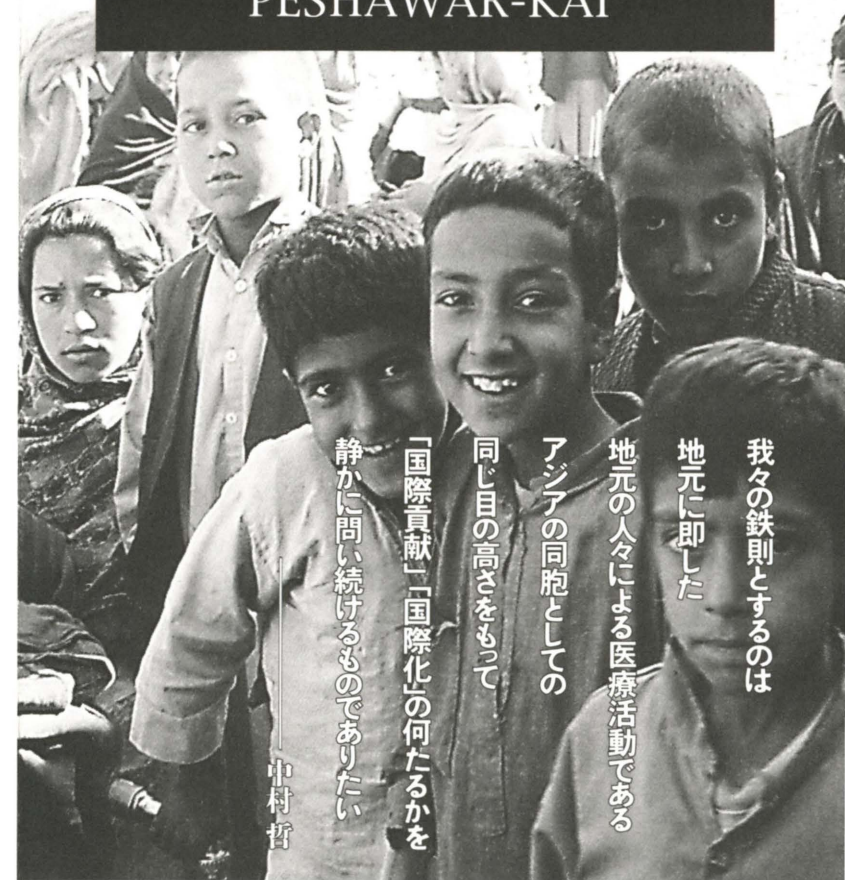
* 書籍のご注文の際は、
郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座
まで送金ください。

●会報の発送に年間百万円以上がかかっています。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(古切手は扱っておりません)

●海外医療協力団体●

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI



我々の鉄則とするのは
地元へ即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい
中村哲

ペシャワール会事務局 本部:福岡

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル307号
電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373
分室 石風社内 電話・FAX 092-725-3440
(会長)高松勇雄 (事務局長)村上優 (現地代表)中村哲
郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会
ホームページ <http://www.1m.mesh.ne.jp/peshawar/>
eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

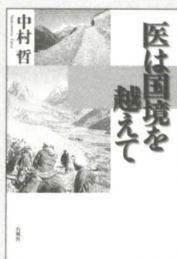
ペシャワール会の活動は、1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています



『ペシャワールにて』
1800円十税
(石風社 89年刊)



『ダラエヌールへの道』
2000円十税
(石風社 92年刊)



『医は国境を越えて』
2000円十税
(石風社 99年刊)



『アフガニスタンの診療所から』
1200円十税
*アジア太平洋賞特別賞 (筑摩書房 93年刊)



←『アフガン 乾いた大地 戦火の中の民』

丸山直樹著
1400円十税
(NHK出版 01年刊)

『ドクター・サーブ → 中村哲の15年』

丸山直樹著
1500円十税
(石風社 00年刊)



誰も行かない所にこそ、我々のニーズがある

●パキスタン（北西部）、アフガニスタン（北東部）山岳無医村で医療活動

○ペシャワール会と中村哲医師は、1984年より現地活動を開始し、現在パキスタンとアフガニスタンに1病院と10診療所を設立し、年間約30万人の診療を行っています。

○1998年に日本の会員の寄付によって完成したペシャワールの基地病院（PMS＝ペシャワール会医療サービス 70床）が現地活動の中心です。

○らい（ハンセン病）コントロール計画を中心として、その他のあらゆる感染症を診療し、病気の早期発見と予防に努めています。

○ただ病気を治療するだけでなく、らい患者の足を保護するサンダル工房を病院内に備えるなど、予防にも力を入れています。

○女性患者が、医師（男性）にすら肌を見せないイスラム的風習の中で、日本人看護婦によるケアや医療スタッフの教育も重要かつ不可欠です。

○病院で患者さんを待つだけでなく、病院に行く交通費さえない山岳部の患者さんのため、定期的に巡回診療（無料）に出かけています。



パキスタンとアフガニスタンで活動しています

○パキスタンの北西部とアフガニスタンは、歴史的な経緯から、民族的に一体であるばかりでなく、現在でも多くのアフガン人が難民となってパキスタン側に流れ込んでいます。

○難民の故郷であるアフガニスタン農村無医地区への支援は、彼らの自発的な帰還を促し、長期的にはアフガン復興の礎となるものです。



1 医療施設（2002年2月現在）

パキスタン側（3ヶ所）

内訳 基地病院PMS（ペシャワール会医療サービス、70床） 1ヶ所
北西辺境州、北部山岳地帯の診療所 2ヶ所

アフガニスタン側（8ヶ所）

内訳 ・カブール臨時診療所 5ヶ所
・北東部山岳地帯「無医村」3ヶ所

2 水源確保計画（2002年2月現在）

アフガニスタン東部 作業地670ヶ所（うち600ヶ所以上利用可能）

孤立のアフガンで2000の井戸を掘る

●水源確保事業

○アフガニスタンは1999年春以来、百年に一度といわれる大干ばつに見舞われ、国民の約半数の1200万人が被災、100万人が餓死寸前にあるといわれています。

○ペシャワール会では、2000本の水源確保（井戸・カレーズ）を目指し、700

名の現地スタッフとともに活動を続けています（2002年2月現在作業地670ヶ所、利用可能井戸603ヶ所）。

○また山岳部の3診療所に加え、国内避難民の殺到する首都カブールに5つの臨時診療所を設立（2001年～）、国外に避難できない貧困層を中心に、無料診療を行なっています。

○2001年10月からは、空爆下のアフガンで難民になることもできない人々への食糧配給事業（小麦粉・食用油）を、アフガン東部を中心に行ないました（～2002年2月）。



アフガンの農村復興を!

●アフガン緑の大地計画

○空爆下のアフガニスタン国内難民への食糧配給計画を中心とした「アフガンいのちの基金」へは、日本国内から7億円（2002年3月現在）を超える善意の寄付が寄せられました。

○厳冬期を迎えたアフガンで、小麦粉と食用油（日本の米、味噌、醤油に相当）を約15万人に配給しました。（最も緊急を要する極貧層や空爆地域を優先、1.5カ月分を配布）。

○緊急の食糧配給事業は、首都カブールと東部ニングラハル州を中心に2月まで続けられましたが、政権変動に伴う急激な治安悪化と他の国際団体の活動開始をもって、第一次計画を終了しました。今後は長期的展望に立った、アフガニスタンの農村復興に全力をかたむけます。

○具体的には

- 1 水源確保計画……今後3年で2000の水源（井戸・カレーズ）確保を目指す。
- 2 食糧配給計画……



現在の備蓄食糧を、ペシャワールの基地病院にやってくる妊婦や栄養失調の子どもに薬品として支給する

3 医療計画……北東山岳部および首都カブールの8診療所

4 農業研究・教育……今後5年、水質検査、乾燥に強い野菜穀物品種の改良、種もみの配給、現地に適した農業用水路の研究、農村部の学校や地域の教育施設の支援の4つの事業が中心になります。



中村哲

なかむら てつ

現地代表・医師



ペシャワール会現地代表、PMS（ペシャワール会医療サービス）病院長。1946年福岡市生まれ。西南学院中学・福岡高校・九州大学医学部卒業。国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。らい（ハンセン

病）のコントロール計画を柱にしたアフガニスタン難民の診療に携わる。1986年アフガン難民のための医療チームを設立、長期的展望に立ったアフガン山岳地帯の無医村での診療を实践。1991年からアフガン北東部に3つの診療所を設立し、無料診療にあたる。

1998年には恒久的な基地病院PMS（ペシャワール会医療サービス、建坪1000坪、70床）をペシャワールに建設、らい診療とアフガニスタン両国の活動の拠点とする。

2001年からはアフガニスタン首都カブールに5つの臨時診療所を設置、貧困地区の診療を行う一方、大干ばつに見舞われたアフガニスタン国内の井戸と水路（カレーズ）の掘削と復旧に従事。2001年10月には「アフガンいのちの基金」を設立。空爆下、国内避難民への緊急食糧配給を实践。

PMSの現地スタッフ225名、日本人スタッフ5名。年間診療数30万人以上。

【受賞】外務大臣賞（1988年）毎日国際交流賞（1992年）西日本文化賞（1993年）読売医療功労賞（1996年）朝日社会福祉賞（1998年）

【著書】『ペシャワールにて』『ダラエ・ヌールへの道』『医は国境を越えて』『医者井戸を掘る』（石風社）『ほんとうのアフガニスタン』（光文社）『アフガニスタンの診療所から』（筑摩書房）など

心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されるNGO(非政府組織)です。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などいかなるものにも関係なく入会できます。
*会員の方には、現地の活動をお知らせする会報を年4回お送りしています。



会費 (年会費)

学生会員	1000円 (以上)
会員	3000円 (以上)
維持会員	10000円 (以上)
団体会員	30000円 (以上)

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

- *会費以外の寄付も随時受け付けております
- *中村医師の著作も扱っています

会費・寄付などの納入方法

郵便口座 01790-7-6559
加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出し下さい。

*

*

*

! 書籍のご注文の際は、
郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座
まで送金ください。

●会報の発送に年間百万円以上がかかっています。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(古切手は扱っておりません)